

教職課程運営委員会

2022年度 教職課程に関する部局活動計画

分野	活動計画			エビデンス	点検・評価		点検・評価 全学レベル（内部質保証推進室） コメント	
	No.	計画内容	評価の視点		部局レベル			
					法令適合	モニタリング		
教育	1	【教育理念・学修目標】 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画（以下「教員の養成の目標」という。）を策定し、公表します。また、教育環境の変化等を踏まえ、必要に応じ適切な見直しを行います。	ア	建学の理念や精神に基づいた教員の養成の目標等が具体的かつ明確な形で設定され公表されているか。	●大学HP（教員養成の状況についての情報公表に関すること）		✓	当該分野の取り組みについて、引き続き適切に実施すること。
			イ	学生や採用権者の意見の考慮、北九州市の教員育成指標との関係性の考慮が行われているか。	●北九州市地区教育実習連絡協議会資料		✓	
			ウ	学修成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか。	●教育実習校からの意見・要望まとめ ●履修カルテ、自己評価シート		✓	
	2	【授業科目・教育課程の編成実施】 教職課程の授業科目・教育課程を学修環境も含め適切に編成・実施します。	ア	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか。	●北九州市立大学教職課程運営委員会規程第3条		✓	
			イ	ICT環境、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか。	●関連図書 ●ICT環境の整備状況（電子黒板機能付きプロジェクター・電子教科書）		✓	
			ウ	教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか。	●教職課程履修規程第9条		✓	
	3	【教職員組織】 教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を適切に実施するための教職員組織を充実させ、その質的向上のためFDやSDの取組を展開します。	ア	全学的に教職課程を実施する組織を設置し、当該組織の果たす役割・機能が明確に示されているか。また、教職課程の自己点検・評価の実施にあたり、教職課程を有する各学科等と連携しながら、必要な調整を行うなど、教職課程の自己点検・評価の適正な運営が実施されているか。	●教職課程運営委員会規程 ●教職課程運営委員会議事録		✓	
			イ	教職課程認定基準を踏まえた教員を配置しているか。また、教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置しているか。	●大学HP（教員養成の状況についての情報公表に関すること） ●課程認定申請書類、変更届 ●事務分担表	✓	✓	
			ウ	教科に関する科目の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標等への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDの取組が実施されているか。	●FD研修の実績 ●授業評価アンケート ●SD研修の実績		✓	
			エ	個々の授業科目の見直しにつながるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行われているか。	●授業評価アンケート		✓	
	4	【情報公表】 教職課程について、法令に定められた情報公表を行います。	ア	法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行われているか。また、大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているか、エビデンスとともに説明できているか。	●大学HP（教員養成の状況についての情報公表に関すること）	✓	✓	
			イ	教職課程の自己点検・評価に関する情報を根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすく公表できているか。	●大学HP（教員養成の状況についての情報公表に関すること） ※「教職課程の自己点検・評価」の項目追加		✓	

分野	活動計画			エビデンス	点検・評価		点検・評価
	No.	計画内容	評価の視点		部局レベル		全学レベル（内部質保証推進室）
					法令適合	モニタリング	コメント
	5	【教職指導（学生の受入・学生支援）】 学生に教職への入職に関する進路指導を適切に実施します。	ア 学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか。	●教員採用試験対策ゼミ ●現任教員を授業に招聘し、キャリア教育を実施		✓	
	6	【関係機関等との連携】 教育委員会や教育実習を実施する学校等と連携・協力し教育課程や学生指導の充実に取り組みます。	ア 教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか。	●北九州地区教育実習連絡協議会（校長会や教育委員会との意見交換）		✓	
			イ 教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施に努め、学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を提供しているか。	●大学HP(学習支援ボランティア実施状況) ●学士課程運営検討部会会議資料		✓	
			ウ 学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか。	●外部講師招聘実績		✓	

2022年度 教職課程に関する部局活動計画に基づく点検・評価報告書

分野	活動計画			エビデンス	点検・評価		点検・評価 全学レベル（内部質保証推進室）	
	No.	計画内容	評価の視点		部局レベル			
					法令適合	モニタリング	コメント	
教育	1	【授業科目・教育課程の編成実施】 各学科の教職課程において、法令及び本学の教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画（以下「教員養成の目標等」という。）と対応した授業科目・教育課程を編成し、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学生の学修を促進する指導体制の下、ICT等を活用した新たな手法も含め、授業科目を適切に開講し、学生に教授します。	ア	法令及び教員の養成の目標等と対応した必要な授業科目が開設されているか。	●履修ガイド ●シラバス	✓		当該分野の取り組みについて、引き続き適切に実施すること。
			イ	今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教職課程カリキュラム・マップ		✓	
			ウ	教職課程について、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●教職課程運営委員会議事録 ●履修ガイド ●シラバス		✓	
			エ	学科等の目的を踏まえ、教職課程科目とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成しているか。	●履修ガイド ●シラバス ●コアカリキュラム対応表	✓	✓	
			オ	教員の養成の目標等と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか。	●シラバス ●履修ガイド ●大学HP		✓	
			カ	アクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	
			キ	個々の授業科目について、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●授業評価アンケート ●シラバス		✓	
	2	【学修成果の把握・可視化】 授業科目の成績評価及び卒業判定は、基準に基づき、厳格かつ客観的に実施します。また、教員養成の目標の達成に向け、履修カルテ等を活用し、学修状況を適切に把握するとともに、きめ細かな教職指導を行います。	ア	成績評価基準をDP及びCPに定められている学修成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定し、学生に周知しているか。また、当該基準は達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができているか。公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか。	●成績評価基準の策定と公表状況 ・シラバス ・履修ガイド ・大学HP 等		✓	
			イ	「履修カルテ」「自己評価シート」を用いて、学生の学修状況に応じた教職指導を行っているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●授業評価アンケート ●資格取得状況 ●就職の状況（教員） ●卒業時アンケート調査結果（学修成果、満足度等）		✓	
	3	【教職指導（学生の受入・学生支援）】 教職課程について、適切に情報提供するとともに、教育環境を整えた上、「履修カルテ」を活用しながら、学生の適性や資質に応じた教職指導を実施します。	ア	学生へ教職課程に関する積極的な情報提供ができているか。	●大学HP ●新入生オリエンテーション ●履修ガイド ●電子掲示板		✓	
			イ	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、適切な履修指導が行えているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●自己評価シート未提出者等に対する学科面談 ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	

2022年度 教職課程に関する部局活動計画に基づく点検・評価報告書

分野	活動計画			エビデンス	点検・評価		点検・評価 全学レベル（内部質保証推進室）	
	No.	計画内容	評価の視点		部局レベル			
					法令適合	モニタリング	コメント	
教育	1	【授業科目・教育課程の編成実施】 各学科の教職課程において、法令及び本学の教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画（以下「教員養成の目標等」という。）と対応した授業科目・教育課程を編成し、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学生の学修を促進する指導体制の下、ICT等を活用した新たな手法も含め、授業科目を適切に開講し、学生に教授します。	ア	法令及び教員の養成の目標等と対応した必要な授業科目が開設されているか。	●履修ガイド ●シラバス	✓		当該分野の取り組みについて、引き続き適切に実施すること。
			イ	今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教職課程カリキュラム・マップ		✓	
			ウ	教職課程について、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●教職課程運営委員会議事録 ●履修ガイド ●シラバス		✓	
			エ	学科等の目的を踏まえ、教職課程科目とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成しているか。	●履修ガイド ●シラバス ●コアカリキュラム対応表	✓	✓	
			オ	教員の養成の目標等と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか。	●シラバス ●履修ガイド ●大学HP		✓	
			カ	アクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	
			キ	個々の授業科目について、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●授業評価アンケート ●シラバス		✓	
	2	【学修成果の把握・可視化】 授業科目の成績評価及び卒業判定は、基準に基づき、厳格かつ客観的に実施します。また、教員養成の目標の達成に向け、履修カルテ等を活用し、学修状況を適切に把握するとともに、きめ細かな教職指導を行います。	ア	成績評価基準をDP及びCPに定められている学修成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定し、学生に周知しているか。また、当該基準は達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができているか。公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか。	●成績評価基準の策定と公表状況 ●シラバス ●履修ガイド ●大学HP 等		✓	
			イ	「履修カルテ」「自己評価シート」を用いて、学生の学修状況に応じた教職指導を行っているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●授業評価アンケート ●資格取得状況 ●就職の状況（教員） ●卒業時アンケート調査結果（学修成果、満足度等）		✓	
	3	【教職指導（学生の受入・学生支援）】 教職課程について、適切に情報提供するとともに、教育環境を整えた上、「履修カルテ」を活用しながら、学生の適性や資質に応じた教職指導を実施します。	ア	学生へ教職課程に関する積極的な情報提供ができているか。	●大学HP ●新入生オリエンテーション ●履修ガイド ●電子掲示板		✓	
			イ	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、適切な履修指導が行えているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●自己評価シート未提出者等に対する学科面談 ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	

2022年度 教職課程に関する部局活動計画に基づく点検・評価報告書

分野	活動計画			エビデンス	点検・評価		点検・評価 全学レベル（内部質保証推進室）	
	No.	計画内容	評価の視点		部局レベル			
					法令適合	モニタリング	コメント	
教育	1	【授業科目・教育課程の編成実施】 各学科の教職課程において、法令及び本学の教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画（以下「教員養成の目標等」という。）と対応した授業科目・教育課程を編成し、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学生の学修を促進する指導体制の下、ICT等を活用した新たな手法も含め、授業科目を適切に開講し、学生に教授します。	ア	法令及び教員の養成の目標等と対応した必要な授業科目が開設されているか。	●履修ガイド ●シラバス	✓		当該分野の取り組みについて、引き続き適切に実施すること。
			イ	今日の学校におけるICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教職課程カリキュラム・マップ		✓	
			ウ	教職課程について、各学科と全学組織である教職課程運営委員会が連携し、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●教職課程運営委員会議事録 ●履修ガイド ●シラバス		✓	
			エ	学科等の目的を踏まえ、教職課程科目とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成しているか。	●履修ガイド ●シラバス ●コアカリキュラム対応表	✓	✓	
			オ	教員の養成の目標等と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか。	●シラバス ●履修ガイド ●大学HP		✓	
			カ	アクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか。	●履修ガイド ●シラバス ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	
			キ	個々の授業科目について、学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか。	●授業評価アンケート ●シラバス		✓	
	2	【学修成果の把握・可視化】 授業科目の成績評価及び卒業判定は、基準に基づき、厳格かつ客観的に実施します。また、教員養成の目標の達成に向け、履修カルテ等を活用し、学修状況を適切に把握するとともに、きめ細かな教職指導を行います。	ア	成績評価基準をDP及びCPに定められている学修成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定し、学生に周知しているか。また、当該基準は達成水準を明らかにし、厳格に点数・標語に反映することができているか。公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか。	●成績評価基準の策定と公表状況 ・シラバス ・履修ガイド ・大学HP 等		✓	
			イ	「履修カルテ」「自己評価シート」を用いて、学生の学修状況に応じた教職指導を行っているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●授業評価アンケート ●資格取得状況 ●就職の状況（教員） ●卒業時アンケート調査結果（学修成果、満足度等）		✓	
	3	【教職指導（学生の受入・学生支援）】 教職課程について、適切に情報提供するとともに、教育環境を整えた上、「履修カルテ」を活用しながら、学生の適性や資質に応じた教職指導を実施します。	ア	学生へ教職課程に関する積極的な情報提供ができていますか。	●大学HP ●新入生オリエンテーション ●履修ガイド ●電子掲示板		✓	
			イ	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、適切な履修指導が行えているか。	●履修カルテ・自己評価シート ●自己評価シート未提出者等に対する学科面談 ●教育環境の整備（電子黒板・電子教科書）		✓	